

見上げたる  
現役兵と其妻女  
大字宮字代出身四家武君

内郷村報の  
六大使命

- 一、政策推進を期して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各團體の活動状況を指導し併せて其協調を計り、進取和進努力の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村関係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、貧窮力を以て國民慈善に努むる。

# 内郷村報

天法人則  
ニ從順ナ  
ルベシ

勇躍！同志相携へて

燃料報國に馳せ參ぜよ

大内民惠

予は予が半生、約三十年の間、世界の平和、人類の幸福を、其理想とする、我帝國の大使命を遂げる爲には、先づ以て我帝國自らの国力充實を、計らなければならぬと、絶叫して來たのである。而して其根本方針として、全國民を總動員して、我國の領土領海の全富源を、剩す處なく開拓利用しなればならぬ、それは全國農村の過剩人口を、其富源開拓の爲に、活躍せしめなければならぬといふ見地から、其一端を顯現する爲にも、既に十有六年以前に於て、常磐炭田の王座を占むる、磐城炭礦當局に諮り、其承認賛同を得、故澁澤子爵や、當時の岩田知事等の賛助の下に、其從業員を收容指導する「七年會」なるものを創立し、

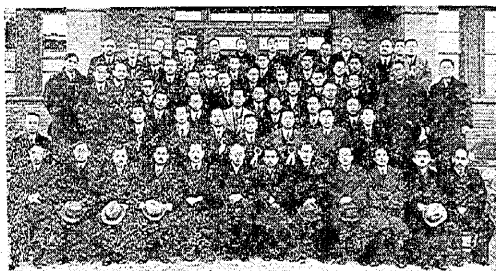
爾來幾千の青壯年を送迎して、今日に到つたものであつて、短才不徳の致す處、未だ豫期せる成果を見るに到らずと雖も、聊か貢獻する處はあつたと、確信して居るのである。

かくて予は本年に入り、我常磐炭田を、天下に紹介せんとして、先づ「内郷村報磐城炭礦紹介號」を發行して其概況を説明し、次いで平市に開催せられた、縣下方面委員大會に於いては、予自ら常磐炭田の全貌を紹介すると共に、多數の委員諸子をして、親しく各炭礦を視察見學せしめたのであつた。

而して今や、予の主張念願は、我厚生省や、鑛山監督局の主義方針と、相一致

せる傾向を招來するに到れる事は、邦家の爲將た斯界の爲に、眞に慶賀に堪へざる次第である。

去る十三日、仙台市に於て、厚生省及仙台鑛山監督局主催の下に、鑛山事務者幹旋に關する協議會が開催せられたが、以上の當局は



各炭礦視察を兼ねた協同會議出席者 (淺野徳翁領念館支關)

其席上に於て、炭礦を軍需産業と見做して、其從業者の紹介幹旋に、力を致すべき事を言明せられ、且つ翌十四日には、其出席者中より、厚生省福島事務官を始め、四十余名の各縣職業課長、課員、各職業紹介所長、所員の諸氏は大舉して、入山、磐城、古河の三大炭礦

の經營状況を、具さに視察すると共に、其言明を實現すべき事を誓つて、歸還せられたのである。

一口に炭礦といへば、危険極まる處でもあるかの様に思つて居る人々が、未だに少くないのであるが、本紙十一月號にも報導してある通り、當局の指導監督下に、諸般の施設は完備し、當事者の緊張精勵は、無事平安を維持し、常磐を通じて其事故災害は、一ヶ月僅かに數件に過ぎずと、監督當局は發表をして居る。

又或一面には、出征に將た各種軍需工業に、中堅の働き手は、何れも召し出さる。

今や我磐城炭礦では、七千人の從業員を有し、一ヶ月百圓内外の収入を見るもの數百を算し、尙且つ一千人を要するとの事である。予は最近本縣富澤地方課長に會見、縣下疲弊町村數をたづねたるに、五十數ヶ村を擧げられた。かりに其一

## ◎從業員大募集!

人員 壹千名 (経験が無くても仕事が出来ます)  
 年齢 十六歳以上五十歳まで (一身体壯健のもの)  
 賃金 實費會社にて負擔いたします  
 住宅 一日圓以上四圓(請負制)にて就業時間八時間乃至拾時間  
 寄居 世帯持には住宅を無料で貸與いたします  
 就業場所 獨身者のために寄宿舎あり(食費寝具共一日四十五錢)  
 糞坑、住吉坑、町田坑(常磐線線路下)車長倉坑(本縣下車)  
 希望者は最寄職業紹介所か町役場又は直接會社に御申込下さい!

東北第一の大炭礦!!

磐城炭礦株式會社礦業所

(福島縣石城郡内郷村大字綴)

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社體は子孫に傳ふる運命を擔負するものなり。

本紙定価一冊五錢(一年五冊共四十八錢)  
 發行所 福島縣石城郡内郷村大字綴二〇  
 編輯發行所 内郷村報社  
 印刷所 平活版所

責任分擔主義なるかな、大に意を強うした事である。本紙は特に増刷して、教育委員會委員各位並に役員諸氏全部に贈呈する事とした。

(一面よりつづく)  
ケ村から、二十人宛炭礦に  
出勤、農閑四ヶ月間就働、  
食費雑費を控除して、一ケ  
月五十圓、四ヶ月二百圓の  
純収入を得るにすれば、五  
十數ヶ村に、二十數萬圓が  
うるはふ勘定となる。

茲に於て予は、銃後燃料  
報國の、此快舉に對して、  
各村の當局は、須らく之に  
鑑み、其管下の生活實情を  
調査し、一家一村更生の爲  
にも、餘剩勞務者を詮考幹  
旋、勇躍して我炭田に、馳  
せ參ぜしむる勞を、とられ  
ん事を念願して止まない次  
第である。

最後に參考として、前記  
協議會に出席し、且我炭田  
を一巡、其一斑を親しく踏  
查せられたる氏名を左に列  
記するを以て、我炭田に來  
らんと欲する人々は、何れ  
も必ず最寄の紹介所を訪問  
して、其委細を聴取し、且  
其紹介を乞はれん事を希望  
して擧筆する。

◎協議會出席者氏名

厚生省職業部 引田紹介課長  
福島理幸官、宮崎廣  
仙台鐵山監督 中村局長、齊  
藤鐵政課長、佐久間書記官、關係  
官。  
福島縣 職業課長渡邊一太郎、  
屬小針久四郎、同紹介所 福島  
川島順一郎、若松、今野治郎二。  
郡山、實方貞一郎、平、立澤高元  
白河、増子正見、喜多方、阿部文

雄。田島、猪股留八。中村、稻葉  
正美。富岡、中務只彌。  
宮城縣 職業課長星敏雄。屬七  
浦正。同紹介所 仙臺、宮原恒  
助。石巻、尾形猛。築館、須田義  
雄。大河原、莊司庄九郎。氣仙沼  
佐治秀松。古川、長沼進。佐沼、  
吉田太郎。  
岩手縣 職業課長、宮川宇一郎  
同紹介所 盛岡、喜多章明。花  
巻、須藤久四郎。釜石、大竹林藏  
水澤、佐藤亦助。一ノ關、佐藤三  
千治。高田、小野寺喜得。宮古、  
清水吉一。久慈、森川吉藏。福岡  
棚山鐵太郎。  
青森縣 職業課長、小野寺五  
屬小林雅清。同紹介所 青森、

糸川萬次郎。八月、山田光政。弘  
前、石橋孝。野邊地、小野寺正視  
田名達、小田川甚十郎。五所川原  
武田甚治、鎌ヶ澤、中山正太郎。  
三陸、森崎治。黒石、栗、秀雄。  
秋田縣 職業課長、森永勲。  
同紹介所 秋田、越姓玄惠。大  
館、泉重一。横手、須藤雅一。湯  
澤、赤須政章。能代、幸野純一。  
本莊、常世千代喜。大曲、藤出貫  
一。  
山形縣 職業課長、佐々木二郎  
屬北野公一。同紹介所 山形  
鈴木清。鶴岡、秋野光民。米澤、  
渡邊周藏。新庄、關我友。酒田、  
土佐林茂。楯岡、伊東一郎。寒河  
江、東海林孝一郎。長井、石田喜一  
備考 礦山關係者は之を略す。

産業報國親和會

光輝ある歴史を有し、其  
貢獻する處多大であつた、  
磐城炭礦の従業員から成る  
親和會に於ては、時局に鑑  
みる處あり、去る十一月淺  
野翁頌徳記念館に、聯合役  
付懇談會を開催、種々協議  
の結果、會名に産業報國の  
四字を冠し、其意氣を以  
て、一致協力銃後の本分  
盡すべく結成式を行つた

淺野社長と  
齋藤重役

の一行は、十二月五日來山  
各坑を視察し、主任以上を  
招集して、激勵の訓辭をな  
し、翌六日歸京した。

磐炭役付會

十一月二十日淺野翁頌徳  
記念館に開催、親和會世話  
役、青年會幹部出席、上原  
勞務課長より、銃後の産業  
報國に關する訓辭ありたる  
後、礦夫充員募集對策諮問  
第二次防空訓練實施に關す  
る注意あり、次いで世話役  
岩崎義美君  
が、福島縣職業紹介事業協  
會長(知事)より、模範從  
業員として、表彰せられた  
る爲、其表彰狀及記念品の  
傳達を行つた。

大越一郎少尉

内郷村在郷軍人分會長に  
して、磐炭勞務課員の同氏  
は、十一月二十八日召集を  
うけ、同三十日村内有志多

數の歡送裡に出發した。  
川渫勤勞奉仕  
大字宮を貫流する宮川は  
毎年雨期に氾濫して、被害  
少なからざるに鑑み、沿岸  
村民と磐炭従業員一千余名  
は、十二月四日を期し、一  
致協力それ、受持區域を  
定めて、川渫の勤勞奉仕  
をなした。

職工徒弟募集

磐炭、製作機電發電の各  
課に於ては、來春高等小學  
校卒業生中より、男女一二  
〇名(女子二〇名)の徒弟  
を採用する事に決定、それ  
を揭示して、十二月盡日  
迄、之が受付をなす由。

青年會總會と  
蓮沼縣議の講演

磐炭青年會にては、十二  
月十一日、淺野記念館に於  
て總會を開催、諸般の報告  
をなしたる後、滿鮮北支を  
視察し歸りたる、蓮沼縣議  
の講演あり、啓發せらるる  
處多大であつた。

遺族會

來る十七日、今次事變の  
名譽戰死遺族三十一名を招  
き、茶話會を開催、墓碑建  
設、各種賜金に纏はる問題  
等に關する注意なす由。

校舎地鎮祭  
炭礦界の好況に伴ひ、小  
學校児童激増の結果、第二  
小學校に五教室増築認可申  
請中の處、過般其認可があ  
つたので、十二月五日同校  
庭に於て、吉田神官及關係  
各名譽職多數參列の下に、  
壯嚴なる地鎮祭を舉行した

方面委員例會

十月六日、各區長聯合會  
會齋歲末に第一カド者及  
戰死者遺族に對し救恤する  
事、資金募集は前年の例に  
よる事、十二月二十日より  
同二十日迄の間に於て、資  
金募集を行ふ事に決定した

磐炭見學

縣下四市長、教育關係者  
及小學校長の一行三十五名  
は、十二月二日綴坑内を見  
學し、淺野翁頌徳記念館に  
少憩して退山した。

修養團聯合總會

十二月十三日、磐城炭礦  
好問、神谷、渡邊の各支部  
聯合總會を、好問小學校に  
開催、本部より、團員一十  
臨席講演あり、團員一千余  
名出席、頗る盛會であつた

◎本紙贊助金寄贈芳名

- 金拾圓 布哇 黒川哲爾
- 金拾圓 内郷 内郷教員會
- 金拾圓 北海道 安孫子倫彦
- 金拾圓 内郷 佐川 商店
- 金五圓 滿洲 渡邊德治郎
- 金壹圓 帶廣 吉田 炭

教育制度改革概論

矢野 恒太 大内 民惠 著  
藤野 宇之吉 著  
(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

愛國婦人會の活躍

我愛國婦人會にては、資  
金造成の爲、十二月三四の  
八圓、五。  
八圓、五。  
八圓、五。  
八圓、五。

我國教育學界の權威

前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地  
ノ御試驗ニ基ク眞學實業ノ大精神ヲ拜  
味仕リ不勝感激ニ打メレ申儀云々。

發行所 日本評論社

東京本橋三丁目  
取次所 内郷村報社

町田組、金坂組合、一ノ  
坪組合、瀧組合長山崎新平  
代組合長松本大、綴一七組  
合長佐藤久太郎、小島三區  
組合長、東海林伊助。  
磐炭分を含まず。  
脇チブス、二三、死亡四。  
バラチブス、七、死亡無し  
デフテリヤ、五五、死亡二

招集して、渡脚の計をたし、翌六日歸京した。

川島順一郎、若松、今野治郎二。郡山、實方貞一郎、平、立澤高元、白河、増子正見、喜多方、阿部文

### 磐炭役付會

内郷村在郷軍人分會長に於て、警務課員の同氏は、十一月二十八日召集をうけ、同三十日村内有志多

### 教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著  
（四六版二一頁 定價五十錢 郵税六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違わらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威  
前京大總長小西重直博士  
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基キ良學界ノ大精神ヲ拜味仕リ不勝感激ニ打テ中ニ誌云々。

發行所 日本評論社  
東京京橋三丁目  
取次所 内郷村報社

### 愛國婦人會の活躍

我愛國婦人會にては、資金造成の爲、十二月三四の兩日、宮及綴兩劇場に於て晝夜三回映畫會を開催、七百參圓拾四錢を得、同八日議事堂に例會を開き、其決算を行ひ、更に歳末には、幹部を總動員して、新年用のお雑器、飯籠、杓子等を販賣し、資金造成の舉に出づる等、目醒ましき活躍をつとけて居る。

○高坂、七六戸、一六一個  
○綴上、六一戸、一二四個  
○綴下、一八戸、三七個  
○白水、四四戸、九六個  
○小島、二七戸、七六個  
○三園八〇。

學校生徒一同。  
金壹圓、輔祭費用節約金、宮町田二三號無名氏。  
金五圓八拾錢、佛教聯合會、内郷班慈光會托鉢金。  
金貳圓、被表彰金中より、町田二三號岩崎義美。  
金七圓七拾錢、蠅をこつて得たる金、女子青年團並家政女學校合同。  
金貳圓、小島、吉田トメ。  
金六圓參拾六錢、村軍人扶助會へ、慈光會托鉢金。

町田組、金坂組合、一ノ坪組合、瀧組合長山崎新平、代組合長松本大、綴一七組合長佐藤久太郎、小島三區組合長、東海林伊助。

水稲増出品評會  
收坪刊 品評會  
十二月一日開催。出品点

白石 鈴木 綾園  
ステッキをわらして歩く時雨かな  
矢の如くさぶ小鳥あり冬木立  
三代のあるじに及び夷譜  
話好の男によなべはつみけり  
事變ニユキ、乍ら編む毛糸哉  
白石 鈴木 貞子

風邪の子の癡入りし顔を脱ぐ哉  
雪の道絶えたる儘に返しけり  
人足のたえたる雪の家を訪ふ  
仙台 千葉 千歳  
小豆千子筵にねむる小猫かな  
はじか、る機にまろびし霞かな  
兵送る秋雨傘をかざし合ひ  
驅れてきし下宿ぐらしの夜食かな  
福島 内池よし子  
花窩や見下す屋のおそろしく  
稲架かけに老の同士の高げなし

磐炭分を含みます。  
腸チブス、二三、死亡四。  
バラチブス、七、死亡無し  
デフテリア、五五、死亡二  
猩紅熱、六、死亡一。  
疫病、三、死亡一。  
赤痢、三、死亡一。  
流行性腦脊髄炎、一。  
計九八。死亡九。

### 軍用飛行機 養雞報國

飛行機納に資するといふ養雞報國聯盟福島支部長よりの通牒に基き、全村に亘りて其募集をなしたるに左の如き好成绩をあげた。

○宮、二〇八戸、五〇五個  
二五圓二二。  
○御台境、二二戸、四〇個  
二圓。  
○御所、四五戸、九三個  
四圓六五。  
○内町、二九戸、六九個  
三圓四五。  
○綴下、一八戸、三七個  
一圓八五。  
○白水、四四戸、九六個  
四圓八〇。  
○小島、二七戸、七六個  
三圓八〇。

十二月十三日仙台市に開催せられた同會に、磐炭の礦業所よりは、菅原所長、上原警務課長、田中囑託、本社よりは、倉田重役、小島庶務副課長の五氏出席した。（第一面參照）

全國強調週間  
期間、十二月二十日より二十六日迄一週間。内二十日は感謝日。本村に於ては、助成金を募集して、年末救恤に充當する事、二十五日には、大正天皇の御聖徳を敬仰し、本制度創始の精神を奉體して、カード者を壓訪する事。

田口藥劑士  
平保健所  
方面委員田口淳三氏の令嗣元勝氏は、先年千葉醫專藥劑科を出て、縣衛生課に勤務中であつたが、過般物江縣議の媒約にて、長野文子嬢と結婚し、次いで本月下旬より開所する、平保健所（所長は前警務課囑託醫青沼學士）に轉勤する事となつた。同家にとつては、祝福二重奏である。因に同所は國營であつて、衛生思想の涵養、榮養の改善と飲食物の衛生、衣服や住宅其他の環境衛生、妊産婦と乳幼児の衛生、疾病の豫防、其他健康の増進に關する事項等を取扱ひ、其管轄區域は平、植田兩警察署管内全部（人口二十一萬）で、完全なる諸設備を有するは勿論、衛生思想啓發に資する活動寫眞（畫間も）をさへ備へ且幾多の參考品をも蒐集して、常に展覽に供するとの事である。

### 篤志家の表彰

左の四氏は頭書の理由により、知事より褒賞状を下附せられたるを以て、十二月一日それれ、傳達された

○各小學校及村役場へ圖書寄附。薄源次郎  
○貧困者救助費として金壹百圓寄附。杉山朝光  
○第一小學校備品費として金壹百圓寄附。加藤政英  
○小學校増築費として金參百圓寄附。戸部光衛

納稅表彰式  
納稅デーの期間中なる、十二月一日村議事堂に於て川鍋稅務所長を始め、關係者多數列席の下に舉行、表彰されたるは、川平組合外四十六組にして、左記五組合、四組合長は、特に成績優良の廉を以て、縣より表彰をうけた。

傳染病患者  
本年四月以降、十二月十三日迄の、本村傳染病患者數は左の通りである。但し

傳染病患者  
本年四月以降、十二月十三日迄の、本村傳染病患者數は左の通りである。但し

恤兵献金  
金參圓六拾參錢、蠅をこつて得たる金、磐城高等女

### 三勇士を出したる 軍國の母

一家三人の軍人を出したる本村只一人の軍國の母、熊田セン子さんは、此程奥村東京日々新聞社長より、左の感謝状に、木杯一箇を添へて贈呈表彰せられた、眞に家門の榮譽であると同時に、我々國民は深甚の敬意を表すべきである。

#### 感謝状

今回ノ支那事變ハ實ニ皇國未曾有ノ大試練デアリマス今上下心ヲ一ニシテ力ヲ盡シテ聖戰ノ目的達成ニ邁進シテキマスガ就中貴下ガ三名ニ送り出サレ相競ウテ武勳ヲ樹テラレツ、アルコトハ御一家御一門ノ榮譽コノ上ナク心カラオ喜ビ申上グル所デアリマス

は、昨年三月二幼兒を妻スセさんに任せて、遠く滿洲の電信隊に、入隊したのであつたが、同受持の方面委員は、其一家の生計を慮つて、昨年七月より軍事扶助法により、賑恤して居つた處、此程スセ子さんが役場に出頭、此程夫より、給料の内毎月送金するから、其扶助を辞退せよと、申し來ましたし、私も亦精力の限り働いて覺悟なれば、廢止していただくこと、健康なる申出でがあつたので、當局に於ても、いたく感激して、其手續きをとりもめるかの如く考へ、扶助を申請せんとする傾向ある

にもか、はらず、此夫妻の如きは眞に賞讃すべき次第である。

#### 我家の胡麻塩デー

田口淳三

我家では事變突發以來、毎週木曜日を、菓子なしデーと定め、家族は勿論來客にも之を饗せず、節約を旨として來たのであるが、今年七月七日の事變一週年記念日、麻塩デーと定め、朝晝の二食は、胡麻鹽と香の物にして、其日の味増汁に香の物丈とし、其日の節約より得たる拾五錢を、貯金箱に投じ、滿一ヶ年後には、それを恤兵献金とする事としたのである之は固より、物資節約、貯蓄實行を趣旨とするは勿論、遙かに戦線にある將兵の勞苦を偲ぶと共に、感謝の微衷を致す次第なのである

#### 先生の満足と 教子の感激

大内民恵

予は二十年來、予の経験と其結果とを鑑み、著書に、新聞に、將た雑誌に、教育制度の改革を絶叫して今日に至り、目下開議中の教育審議會に對しても、屢々意見を開陳しつゝあるのである。而して予が改革案九主義中、其中心核をなすものは、絶対繼續主義と責任分擔主義とであつて、之を略説すれば、例へば小學校に於ては入學から卒業迄、之を受け持つて教育するのが、絶対繼續主義であつて、其教育した児童は、たゞ

在學中のみならず、其卒業後一生の間、師弟の關係を保ち、教育者は其教子一生の行動並に生活に對して、責任をもつのが責任分擔主義であつて、かくある事が眞の教育であるといふのである。而して中等以上の學校に於ても、各学科の受持は別として、其訓練指導方面に於ては、其在學中一人の責任をなして、之に當らしめ、小學校同様一生の間、師弟の關係を密接にし、同時に師としての責任を負はしむるのである。かくてこそ始



影撮念記業卒校學小 君郎太誠は印×生先葛山は央中

予は、予の従弟たる宮城縣白石町の素封家、鈴木菊藏君の令息誠太郎君と、本縣伊達郡小坂村の素封家、佐藤忠一君の息女三枝子さんと、結婚の儀をなした。十二月五日に其式をあげたのであるが、其當日は型の如く、双方より見参の往來、葬式、近親の披露祝宴等を行ひ、翌六日晝には、女子の近親、夜は白石町を中心として、近郷の縁故關係約五十名を招待したのであつたが、先づ長老宮野園藏翁の祝辭があり、次いで立たれたのが、新郎の恩師山崎八郎先生であつた。先生は、いさゝか莊重なる態度で、徐ろに口を開かれ、新郎誠太郎君の小學校時代六年間を支持した事から説き起し、先代富太郎翁の生前、特に教育事業社會事業は勿論、各方面に涉つて、偉大な貢獻をなした事蹟を讀し、父君菊藏氏の温厚なる人格、將た綾園と稱して、併名全國的に噴々たるを稱し、且つ其門下たるを語り



新郎誠太郎君と新婦三枝子さんと

思フニコノ榮譽ハ一朝一夕ノ成果デハナク貴下平素ノ御訓育ガ花ト咲キ實ヲ結ンダモノニホカナリマセンソノ諭エヤウナキ勞苦ト軍國ノ母トシテノ統後盡忠ノ至誠トニ對シ茲ニ深甚ナル感謝ノ意ヲ表シ廣ク世ノ龜鑑ヲラシムル次第デアリマス

東京日日新聞社 取締役社長 奥村信太郎 見上げたる 現役兵と其妻女 大字宮字代出身四家武君

#### 内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各種の活動状況を報導し併せて其協調を計り、進現和進努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村歸郷者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、貧窮力を以て國民榮譽に當る。

せる傾向を招來するに到れる事は、邦家の爲將た斯界の爲に、眞に慶賀に堪へざる次第である。

めて、教育の徹底は期すべきである。かくの如き理想を有する予は、此度圖らずも、以上の兩主義を實行して、其美果を結びたる實例を見るに及んで、感喜に堪へず、教

これ鈴木家歴代の積善が、餘慶となつてあらはれたのであると斷じて、誠太郎君の小學校時代に及び、其入學の當時、教室の後ろの方に、小さい青白い、所謂三角形の秀才顔をして、シツト眞剣に私の言ふ事を熱心に聞き入つて居た様子は、今も忘れられませぬ。成績は勿論何時も抜群であり、中學も高商も亦最優等であり、情にも厚く、常によく同級生の面倒を見、絶えず其動靜を私の許へ知らせてくれ、同時にそれらの人々からは「誠太郎さん」や「葛山先生」などと慕はれて居るのであります。その今回、福島高女出身の才媛、佐藤三枝子さんと迎へられた事は、何となくお目出度い事でありませぬ。私は眞に衷心から慶んで居ります。云々、如何にも満足せられた如く、而して新郎新婦の心得として、敬愛と愛について、詳々訓諭を垂れたのであつた。

列席者一同、何れも襟を正して之を謹聽したるは勿論、誠太郎君は、感無量の思ひに打たれたのであらう、其しばた、く眼涙より、

# 内郷村報

天法人則 從順ナ

本紙發行は内郷一歳の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を發するものなり。

本紙發行は内郷一歳の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を發するものなり。

本紙發行は内郷一歳の事業にして、其の社務は子孫に對する遺言を發するものなり。